



人材育成委員会

— 知財人材育成の中心的な拠点を目指して —

求める「知財人材」を描き、自らも挑戦！
知財人材育成に奮って参加を！

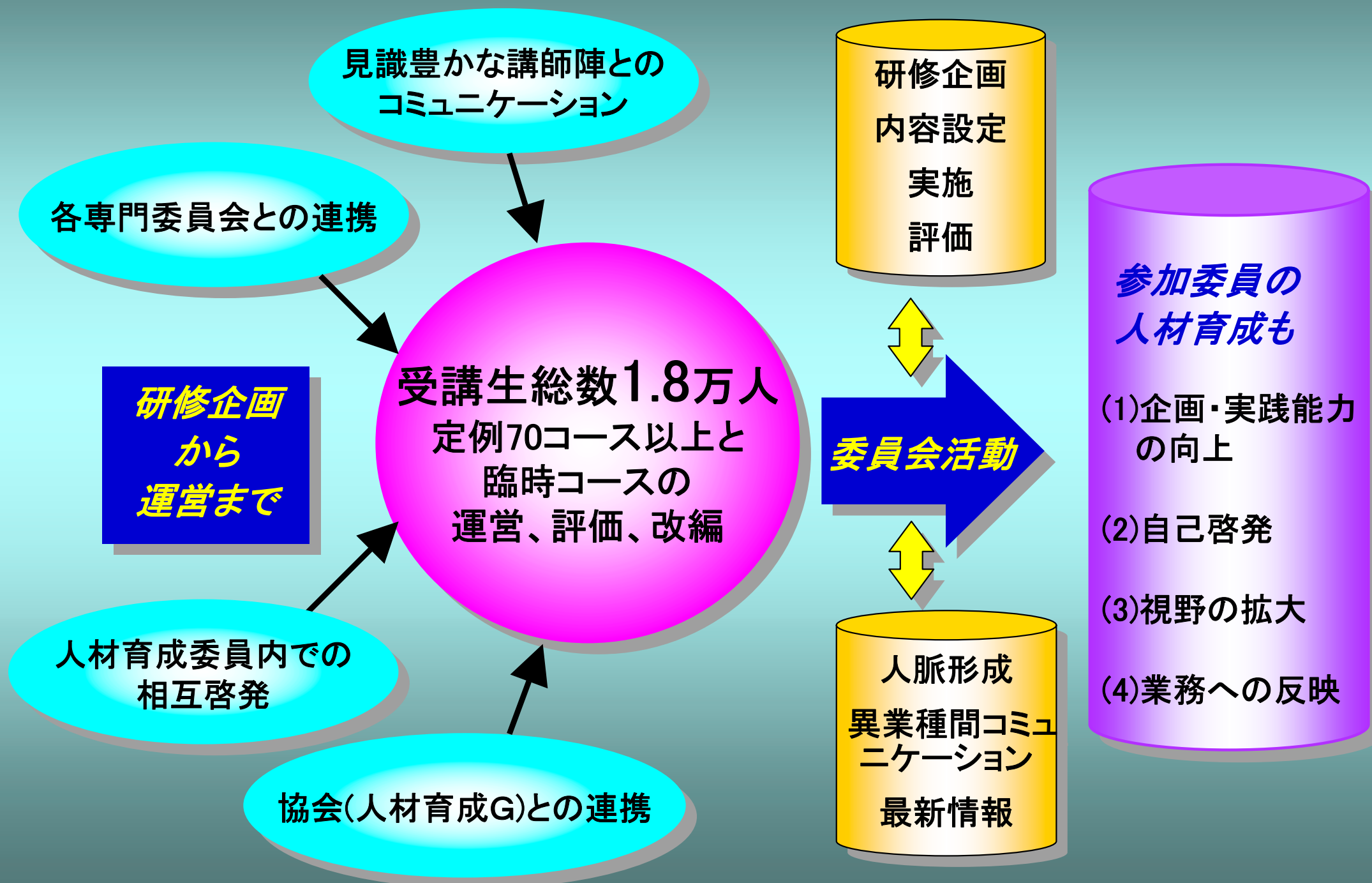
1. 知財人材育成研修

2. 技術者向け知財研修

3. 参加・実践型研修

4. グローバル化対応研修

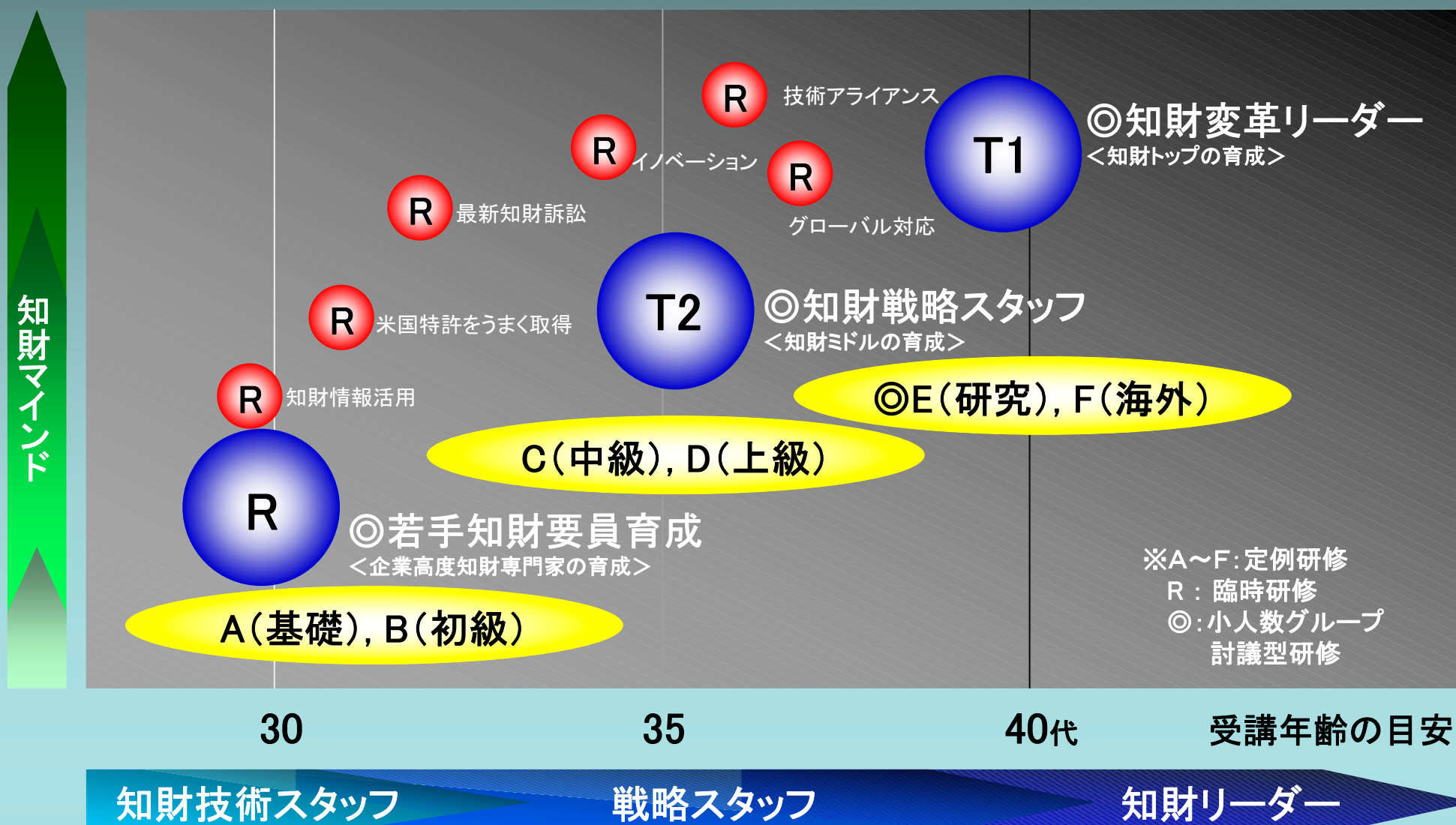
委員会活動の概要



1.知財人材育成研修

【基本的考え方】

- JIPAならではの実践型知財要員の育成
- 年齢・経験に応じたカリキュラム



T1: 知財変革リーダー研修の特徴

- (1)「事業成功への知的財産における本質的課題と変革への取り組み」をテーマにして、会社への提言書を作成する。
- (2)講義と討議や、会社での自己研鑽、研修生同士の相互啓発による、自己啓発型研修である。
- (3)同じ知財業務に携わる研修生が、企業の枠を越えて議論する。
- (4)企業や大学、知財協会から選任した優秀かつ経験豊富な講師が指導する。

—T1講義風景—



T2: 知財戦略スタッフ研修の特徴

- (1)経営学の分析手法の基礎を学ぶとともに、分析ツールの基本を学ぶ。
- (2)ケース・メソッドを通して、研修生間の相互啓発・相互学習によって、深い気づきを得て、自らのものの見方や考え方を身につける。
- (3)大学や企業から選出した優秀かつ経験豊富な講師が指導する。

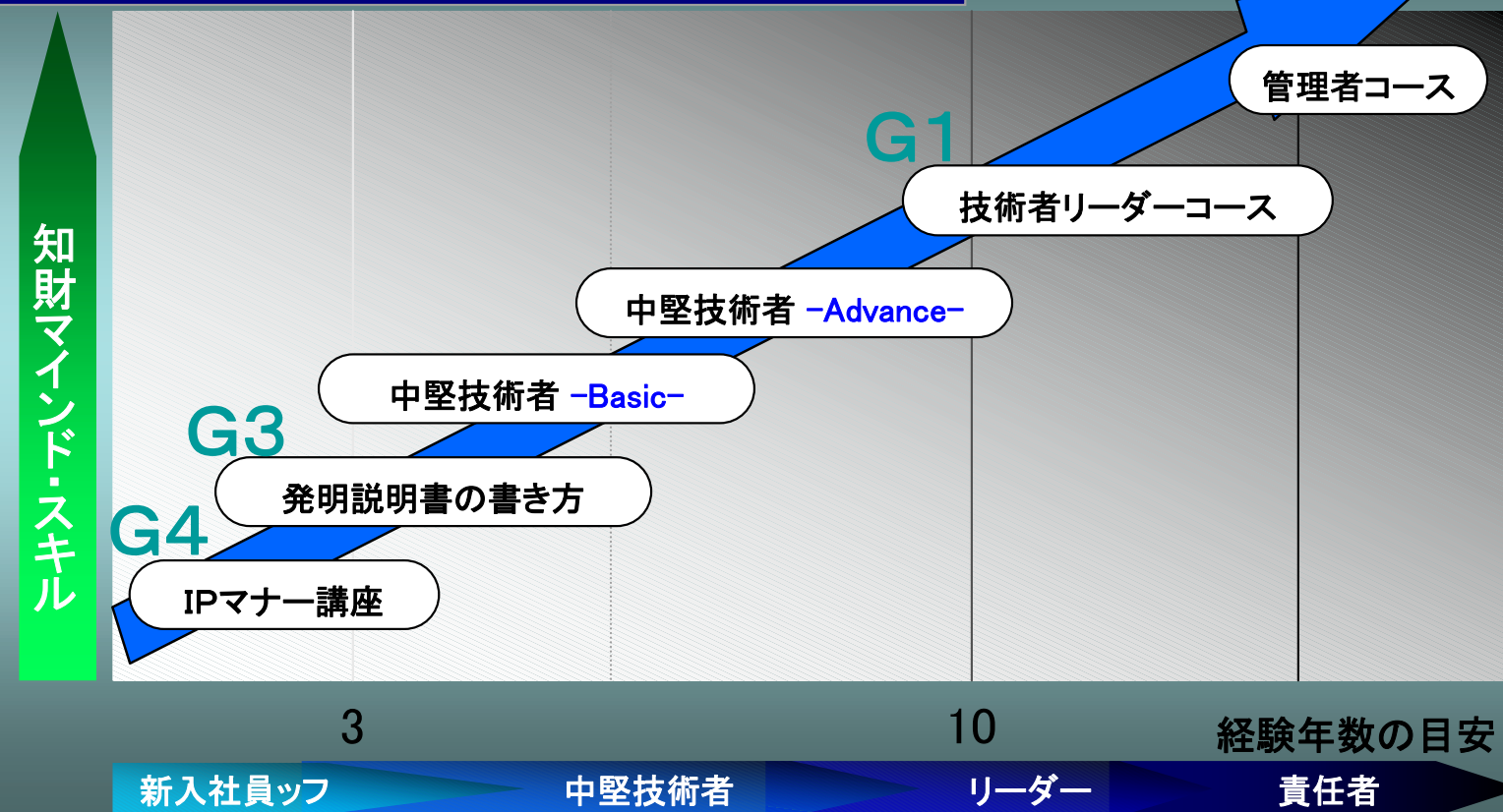
—T2講義風景—



R: 若手知財要員育成研修の特徴

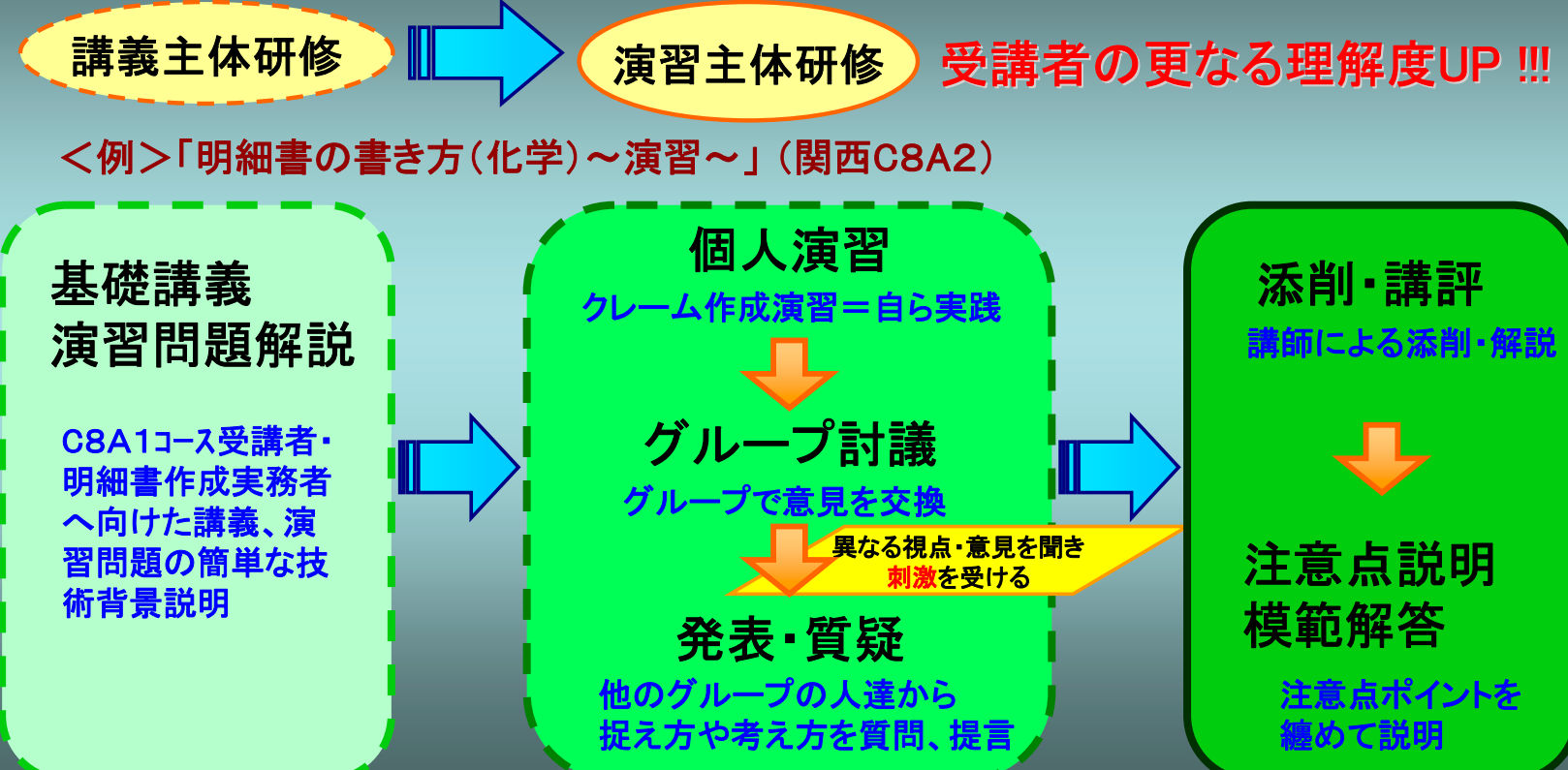
- (1)学び方を学ぶ。
- (2)専門委員会から提示された実践的、かつ、高度な研究課題に対し、グループ研究し、新たな研究課題への問題解決の手法を体得する。
- (3)異なる企業の参加者とのグループ学習・調査・研究・討論を通じて社外人材交流の場を提供する。

2. 技術者向け知財研修の企画



- 【基本的考え方】
- 実務的でJIPAならではの技術者知財研修
 - 企業での経験年数に対応したコース設定
 - 多忙な技術者が受講しやすいカリキュラム
 - 現場経験豊富な講師陣

3. 参加実践型研修会の企画



4. グローバル化対応研修の企画

- 【基本的考え方】
- 目的: 経営のグローバル化に対応できる知財人材の育成
 - 特徴: 「自ら学習する研修」
「現地研修だけでなく、国内事前・事後研修を含む一年間の研修」
《国内事前: 1回/月(4月～9月)、現地: 2～3週間(10月or11月)、国内事後: 1回/月(12月～3月)》

	米国	欧州	中国	韓国	台湾	他
グローバル化対応戦略	(国内臨時研修会) 07年度「インド」実施、08年度「ロシア」予定					
自主企画型訪問	F1		F3 (07年度実施、08年度予定)			
知財技術スタッフ	F2 (07年度実施)	F4 (08年度予定)	F5 (07年度実施)			
(参考: 国内研修)	C4A, D7, E8	C4B, E8	C4C, S2			